

「大塚初重講座」（生涯学習応援ゼミナール）終了！



当NPO理事長の明治大学名誉教授大塚初重先生の考古学講座が2月19日の講座で本年度の講座を終了いたしました。

今回の講座は、大塚先生の専門分野である古墳文化を中心としたもので、1回目が昨年11月16日に「壁画古墳の世界—高松塚、キトラそして虎塚」、2回目が12月18日に「箸墓古墳は卑弥呼の墓か?」、そして、先日、2月19日に最終回として「房総に古墳出現!!」をテーマとした講座が開かれました。

講座では、はじめに大塚先生からテーマに沿った講義をいただき、その後はコーヒーを飲みながら、大塚先生と参加者が意見交換をする形式としたこともあり、参加者は20名に限定させていただきました。1回目は、壁画の保存問題などで話題の「壁画古墳」をテーマとしてはじまったわけですが、その後2回のテーマは、意見交換の中で参加者からの要望も踏まえて決めました。結果的には、多くの方々が興味持っている「卑弥呼」「邪馬台国」が2回目のテーマとなりましたが、日本列島全域に及ぶテーマとなったことから、最終回は千葉県「卑弥呼の時代」「房総半島の古墳の出現」をテーマとすることになりました。

御存知のように「邪馬台国」「卑弥呼」については、中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載があるわけですが、それを考古学の立場で検証し、「邪馬台国は



どこあったのか」「卑弥呼の墓はどこにあるのか。そして、それは古墳なのか」ということが大きな問題になるわけです。講座では、その辺のことについて、大塚先生から、



これまでの考え方や最新の発掘調査、最近話題となっている古墳の実年代などの研究成果などについて、問題点も含めてご説明いただきました。

最終回では、大塚先生は、これまでのように古墳文化の伝播は

大和から地方へという考え方だけでよいのか？房総半島のように定型的な古墳が出現する前に前方部があまり発達しない古墳が多数見つかっている地域があることにも大いに注意を払うべきではないかと締めくくられました。

毎回、参加者からも質問があり大いに盛り上がったわけですが、最終回の講座でも「古墳の形はどうやって継承されたのか」「土器の移動はなぜおこるのか」といった研究者がテーマとするような専門的な質問も出され、大塚先生との間で熱心な質疑応答が行われ、大塚講座は終了しました。

また、昨年秋には、当NPOが中心となって奈良県の史跡等の見学旅行も開かれたのですが、今年度は、大塚先生が発掘調査を行った茨城県の「虎塚古墳」の特別公開に出かけようとの声もでておりました。

当NPOでは、今後も、話題となっているテーマ、皆さんが興味をもっているような事柄をテーマとした歴史講座を開催していきたいと考えております。興味のある方は是非ご参加ください。